\setminus 市民ライターがまちの話題をお届け!ig/広報ひだまち特派員レポート (特派員:水樹 華・岡田 直樹)



▶ 飛騨市地域おこし協力隊委嘱状交付式 ローンの活用推進に取り組む

市で新たに活動する地域おこし協力隊員の山﨑裕考さんの委嘱状交付 式が市役所で行われました。

山崎さんは、神岡町と宮川町にあるドローンパークの運営支援や市民向 け体験会の開催、各種イベントでのドローンのPRなどを行う他、農林業や 水難救助などにドローンを活用するための技術支援もしていきます。

委嘱状を手渡した都竹市長は「ドローンは企業や行政などさまざまなこ とに活用できる。ハードルはあるかもしれませんが、何でも提案してチャレ ンジしてほしい」と激励しました。山﨑さんは「好きなことを仕事にできる のは本当に恵まれている。ドローンを多くの人に知ってもらいたい。中学校 や高校でドローンレース部をつくりたい」と話しました。



₹ 飛騨市薬草フェスティバル2020が開催

丌も騨の薬草の魅力を体感

飛騨市内に自生する豊富な薬草資源を活用したイベント「飛騨市薬草 フェスティバル2020」が10・11日、古川町市街地などで開かれました。

初日は、町内の公共施設や飲食店などでイベントやワークショップ、公共 施設や飲食店などを巡り「薬草カード」を集めると、景品がもらえる「薬草 カードラリー」も行われ、多くの参加者でにぎわいました。

2日目は、黒内地内の「朝霧の森」 をメイン会場とし、薬草フィールド ワークや健康ウオーキング、クイズラリーが行われました。参加者は森の恵 みや薬草に触れながら森歩きを楽しんでいました。

また、隣接する「ぬく森の湯すぱ~ふる」では、薬草入浴剤づくりや、ドラ イヘッドスパなどの特別イベントが開催されました。





■ 五感で感じる高野千本桜夢公園体感ツアー

■ 野千本桜夢公園で森林の魅力を体感

森林空間がもつ魅力を発信することを目的に、古川町高野の高野千本桜夢 公園 (旧古川スキー場) で11日、「五感で感じる高野千本桜夢公園体感ツアー」 が行われました。

ツアーでは、森林インストラクターの八賀光弘さんから公園内の案内や森林 のガイドを受けながら、森林の魅力を体感しました。また、NPO法人グリーン ウッドワーク協会の小野敦さんから木の削り方を教わりながら、過去に園内に 植樹された桜の枝を使用したスプーン作りに挑戦しました。

親子4人で参加された阪本さんは「こんな素晴らしい場所があるなんて知ら なかった」などと話され、満足の1日だったようです。







飛騨市ふるさと納税「日本一」を目指す宣言

10/12 「いっぱん」 るさと納税をしてよかった自治体「日本一」を目指す

市では、「日本一ふるさと納税をしてよかったと思っていただける自治体 を目指す」ことを12日に宣言しました。同宣言は『市民の声を取り入れた血 の通った事業に使います」『寄付者の思いを取り入れます』『寄付の使い道 を明確に報告します』の3項目です。

この日市役所で会見した都竹市長は「寄付のおかげで飛騨市は元気に なっている。使い道を公開することで寄付者との共感の輪を広げていきた い] と話しました。

市では宣言の動画を市公式YouTubeで公開し、寄付金が市内中学校の 吹奏楽部で使う楽器購入や、児童精神科病院「こどものこころクリニック」 の運営などに使われていることを紹介しています。







10/13 飛騨市・台湾・新港郷友好提携3周年セレモニー らなる交流へ「友好クラブ」設立

飛騨市と台湾・新港郷の友好都市提携の締結から3年を迎えた13日、イ

ンターネット中継を使用した記念式典が行われました。

新港郷とは2017年に自治体間の友好都市提携を締結し、これまでホーム ステイの受け入れや、高校生の派遣などで関係を築いてきました。

式典には飛騨市は約30人、新港郷側は約100人が参加。都竹市長は「友 好提携3周年を機に更なる友好を深めていきたい」とあいさつしました。新 港郷の林茂盛(りんもせい)郷長は「飛騨市と新港郷は強い友情で結ばれ ている] とあいさつしました。

また、今後のより深い交流を推進するための友好クラブの設立と、記念酒 「友(とも)」の発表も行われました。







◎特レポ



▲ 小枝利汎展 「小枝利汎×副館長トークイベント」 事画家 小枝利汎氏の画業に迫る!

古川町在住の洋画家、小枝利汎さんの人生そのものが詰まった個展が17日 から飛騨市美術館で始まり、美術館の上屋美千弘副館長とのトークイベントが 開催されました。

イベントで小枝さんは、自身の作品である「馬車」や「雪の廿四日市」などの 独特の空気感に包まれた作品を、その時のエピソードを交えて楽しく語ってい ました。上屋副館長さんは「油彩画の中にある独特の空気感、その土地で生き る人々の厳しさ、優しさ、あたたかさが滲み出ていて、小枝さんならではの作風 となっているのではないか」と話され、作家の思いや背景を探る素晴らしいイン タビューとなりました。



日本スローフード協会 「味の箱船」 登録証書贈呈式

| 日本人ローノート励本 | はないがらの世界遺産"に登録 | 川町の「種蔵紅かぶ」が"食の世界遺産"に登録

飛騨市伝承作物に認定されている宮川町の「種蔵紅かぶ」が、伝統的な食材 の保護に取り組むスローフード協会 (本部=イタリア) が展開する 「味の箱船」 に登録され、17日に高山市役所で登録証書の贈呈式が行われました。

「食の世界遺産」とも呼ばれる「味の箱船」は大量生産などの陰で失いたく ない食材を記録し、生産や消費のPRにつなげて食文化を守ろうというプロジェ クトです。今年は県内から「カーラベ(シコクビエ)」「花もち」「高原山椒」を含 めて4品目が選ばれました。

式典にはそれぞれの生産者らが招かれ、日本スローフード協会の渡邉めぐみ 代表理事が「登録をひとつのきっかけとして、生産や消費のPRにつなげていき たい」とあいさつした後、登録証書を手渡しました。





■ 後 飛騨市ファンクラブ会員持ち込み企画 「オンライントラベル」を開催

飛騨市ファンクラブ会員持ち込み企画 「オンライントラベル」 が10月17 日は神岡町市街地、18日は古川町市街地で行われました。

このツアーは、ファンクラブの会員でエンターテインメント業を営む飯塚 裕司さんから企画を提案いただき開催したもので、参加者には事前に日本 酒や飛騨牛などの特産品が詰まったセットを発送し、特産品を食べながら ツアーに参加していただくことで食べ歩きを再現しました。

神岡のツアーには神岡街歩きガイドの大田利正さん、古川のツアーには 都竹市長がガイドとして出演し、市内の観光名所などを案内しました。参加 者らは、画面上で一緒に特産品を食べたり、クイズをしたり、質問をしたり とオンラインツアーを満喫していました。



飛騨市役所





2020ひだのはたらくくるま展がドライブスルー方式で開催 野地域の「はたらく ましょうかく

「&騨地域の「はたらく車」が集結

ブルドーザーやクレーン車、消防車などを一堂に展示する「ひだのはたらくく るま展」が18日に古川町黒内のふれあい広場で開かれ、親子連れら約530人が 訪れました。

これは (一社) 飛騨古川青年会議所が子どもたちに地元の会社や仕事に関心 を持ってもらおうと、催したもので、今年で7回目を迎えました。

この日は全部で13台が展示され、参加者は大きなモーター音を響かせて動く クレーン車などを車の中から眺めながら、同会議所がこの日のために制作した 動画をスマホで見て、車両の性能や仕事の詳しい内容を学んでいました。

参加した古川町の住祐輔さんは「子どもたちは荷台が自動で外れるトラック に驚いたり、ブロックをもらい大喜びでした」と話されていました。



◎特レポ



第2回飛騨市ノルディックウォーキングフェスタが開催 Ĭ節を感じながらウォーキングを楽しむ

2本のポールを手に体全体を使って散策を楽しむ 「飛騨市ノルディック ウォーキングフェスタ」が10月25日に古川町で開かれ、友人や家族連れら38人 が心地よい汗を流しました。

これは市民の健康と体力づくりのため、市ノルディックウォーキング研究会 (中矢君代さん代表) の協力で、昨年から始めたイベントです。

青空が澄みわたったこの日、参加者はハートピア古川に集合し、3キロと5キ 口のコースに分かれて出発しました。

最初は住宅街ですが、田園風景が広がると皆さん、ススキやコスモスの花、ト ンボの群れに目を細めたり、会話を楽しみながらリズミカルに足を運んでいま した。



岡山ミツさん百歳褒賞 歳おめでとうございます

古川町弐之町の岡山ミツさんが29日、百歳を迎えられました。これに合わ せ、都竹市長らが自宅を訪問し、賞状やお祝いの花束、褒賞金を岡山さんに手 渡しました。

岡山さんは、90代半ばまで畑仕事をされていたそうで、足腰がしっかりして おられ、また受け答えもしっかりされていて、百歳には見えないほどお元気で す。

都竹市長が「百歳おめでとうございます。これからも元気で長生きしてくださ い」とお祝いの言葉をかけると、岡山さんは「ありがとうございます」と笑顔で 応えていました。

ご家族の佐智子さんは「長生きしてくれて嬉しい」と話されていました。



市内小中学校で飛騨市ふるさと学校給食 ■校給食を通じて地元の特産品を紹介

地元の農産品に注目し、生産者の思いや食材への感謝を学ぶ「ふるさと学校 給食」が29日、市内の小中学校で行われました。

この日は、飛騨地鶏を生産している多機能型事業所「飛騨流葉牧場」の堀宏 一さんや市の職員が講師として古川西小学校を訪問し、6年生56人に食育授 業を行いました。授業では、始めに市の職員からトマトやほうれんそう、飛騨の お米なの地元農産品の特徴をパネルを使って紹介。堀さんは、飛騨地鶏がどの ように生産されるのかや生き物と関わる苦労などを紹介しました。

児童らは各教室で飛騨産コシヒカリの新米ごはん、飛騨地鶏のから揚げな ど地元の食材で作られた給食をおいしくいただきました。

